

【3. 独自項目】

項目	江別第一地域包括支援センター	江別第二地域包括支援センター	野幌第一地域包括支援センター	大麻第一地域包括支援センター
<p>(1) 独自に取り組んでいること、特に重要視して取り組んでいることなど、記入する。</p>	<p>①「通いの場」にて買い物困難である住民対策(野菜販売)を試みて、地域住民が身近な場所で交流・運動+αの方法を実践した。 ②認知症予防について新たな方法を用いて啓発活動を行う。 ③自治会内での支え合いや支援ネットワークを構築する。</p>	<p>包括主催個別事例検討型地域ケア会議を通して、多職種・他機関とのネットワークを図ると共に、高齢者を支援する体制づくりに向けて、協議を積み重ね、地域課題を共有した。</p>	<p>①隣市の生活支援体制整備事業に関する取り組みの視察。 ②相談力の強化に向けた取り組み。 ③地域づくりに向けた症例研究の実施。</p>	<p>昨年同様に地域包括ケアシステム構築に向けて、民生委員や自治会会長等と話し合いの場を設け意見交換をしたり、社会資源の情報収集、整理を行った。社会資源のマップ作りは来年度も継続し、来年度の完成を目標に取り組む。大学のある地域のため学生と地域で活躍されている方々と共同で多世代交流のイベントを企画している。</p>
<p>(2)(1)により得られた効果など、取組の評価を記入する。</p>	<p>①地域住民に通いの場を周知するきっかけとなった。野菜販売に協力いただいたNPO法人・会場であるサービス付高齢者向け住宅の協力もあって、民間事業者と協働する介護予防・生活支援の機会となった。 ②認知症予防講座として「五感で育てるシニアの脳育」をテーマに2日間コースで開催。NPO法人の協力によって交通問題を解決し、参加を促すことにつながった。 ③自治会役員・民生児童委員・高齢者クラブ代表者が、弁護士から「個人情報保護法」について学ぶ機会をつくり、支援体制構築に向けて後押しすることができた。</p>	<p>包括主催個別事例検討型地域ケア会議を19回開催した。個別事例を通して、「8050問題」「呼び寄せ同居」「障がい者との同居」「認知症に関する普及啓発」等が地域課題であると把握した。複合及び複雑な課題を抱えている事例が多く、その解決のために、行政、医療、障がい、介護等の多様な関係者・関係機関、当事者などの様々な出席者と協議することができて、ネットワークの強化を図ることができた。</p>	<p>①通いの場や第2層生活支援体制整備協議体を見学するとともに、情報交換を行った。情報交換から地域資源の把握方法を参考にさせていただき、スタッフが日常の訪問で、地域に潜在する資源や人の発掘(地域の宝探し)を行うようになり、地域の見える化が進展した。②障がい者支援センターから講師を招き、「障がい者支援の入り口」というテーマでスタッフの勉強会を実施し、障がい者支援について学ぶとともに、障がい関係機関とのネットワークが築けた。③「強みをいかした地域づくり」というテーマで、ある地域の地域づくりを振り返ることができた。</p>	<p>あらためて社会資源の調査を実施することで新たな資源を発見することができ、相談者へ情報を提供することができた。センター職員と学生だけの打合せのほうがいいが、地域の方々を取り込むことで、イベントに参加するだけではなく、通いの場を自分たち自身で考えて作らなくてはという意識が芽生えたのではないかと思われる。また連携を図ることで関係も強化された。</p>